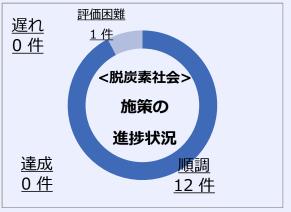
【2022(令和 4)年度の進捗状況】



※「達成」: 施策の当初の目標を達成しているもの

「順調」: 現状のペースで今後も取組を進めていくもの

「遅れ」:ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に

取り組む必要があるもの

※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で

意見や提案等を受けています。

| <施策の進捗状況>

- └ 13 の施策は、12 件が順調の評価。
- ・うち1施策「環境にやさしい交通への転換」 は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により ▶ 評価困難としている。
- ・市域から排出される CO2排出量については、 順調に減少している。
- ・カーボンニュートラルに向けて、環境基本計 画掲載事業以外にも多くの事業を分野横断型で 全市的に実施している。

【2025 年への「めざす姿」】(このような姿に近づいていますか?)

- ・再生可能エネルギーの普及が進み、まち全体としてエネルギー利用の効率化が進んでい る
- ・脱炭素型の暮らしが定着し、脱炭素型の交通システムやものづくりの基盤が確立してい る
- ・人工林の間伐が進み、森林による CO2吸収量が増加している
- ・気候変動への適応の認知度が高まり、取組が進んでいる
- ・環境モデル都市として先進技術やインフラが普及し、取組が浸透している

Goal【まちの状態指標】

指標名	現状値 (把握年度)	目指す方向
再生可能エネルギー導入率	28.6% (2022 年度)	↑
市内の CO2排出量 [※]	272万 t-CO2 (2020 年度)	\
森林による CO2吸収量	15.6万 t-CO ₂ (2020 年度)	1
「気候変動への適応」の言葉を知っていて、積極的に取組を行っている市民の割合(※令和4年度から変更)	26.0% (2020 年度)	1
「地球温暖化対策に取り組むまち」として満足している市民の割合	22.9% (2019 年度)	1

※環境基本計画策定(2018年3月)以降に算定方法の変更あり



Pick Up ゼロカーボン社会の実現に向けたとよた・ゼロカーボンアクション (環境政策課)

令和5年1月に、豊田市、豊田市区長会、豊田商工会議所、あいち豊田農業協同組合、連合愛知豊田地域協議会などで構成するゼロカーボンシティの実現を目指す協議会を新たに発足し、市民や事業者が一体となって「節電」・「3R」・「食品ロス削減」といった身近な環境配慮行動を実践する市民運動「とよた・ゼロカーボンアクション」を開始しました。

Pick Up 「ハロー!カーボンニュートラルプロジェクト (未来都市推進課)

『機動戦士ガンダム』と豊田市がタッグを組んだ「ハロー!カーボンニュートラルプロジェクト」が、2022 年 11 月 1 日(火)より始動しました。

本プロジェクトは、市民及び事業者にカーボンニュートラルをより身近に感じてもらい、自らの行動につなげてもらえるよう、これまでの本市の取組や今後実施する取り組みを 3 つの視点(つくろう、つかおう、つなごう)で整理し、広く訴求していくことが目的です。

訴求効果を高めるため、環境・先進技術と親和性が高く、幅広い世代に人気のあるコンテンツ として、『機動戦士ガンダム』とタッグを組み、様々な取組を展開しています。







©創通・サンライズ

Pick Up カーボンニュートラル対策&物価高騰対策 (環境政策課)(産業労働課)

カーボンニュートラルの促進及び物価高騰対策として、市民及び市内事業者へ省エネ・再エネ設備の導入に関する3つの支援を新たに実施しました。市民向けでは、一定の省エネ性能を有するエアコンや冷蔵庫の設置に対する補助支援を実施し、事業者向けでは、市内中小企業等を対象に、再エネ発電設備導入の補助や、高効率空調や業務用給湯器などの省エネ設備導入の補助を実施しました。

これらの支援策によって、市民及び市内事業者のエネルギー消費量の削減につながり、カーボンニュートラルに向けた取組が加速しました。







自然共生社会

【2022(令和 4)年度進捗状況】



※「達成」:施策の当初の目標を達成しているもの 「順調」:現状のペースで今後も取組を進めていくもの 「遅れ」:ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に

取り組む必要があるもの

※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で意見や提案等を受けています。

<施策の進捗状況>

- ・13の施策のうち6件が順調の評価。
- ・4 施策は、新型コロナウイルス感染症の影響で自然観察会等の講座の中止や定員を削減したこと等により、評価困難とした。
- ・成果指標は、11項目中、8項目が順調に推移。
- ・動植物標本の登録数は、目標とする値に対し 遅れがあるが、博物館等とも連携を取りなが ら、収集・管理を進めてもらいたい等の意見 が出された。

Vision【2050 年への「めざす姿」】(このような姿に近づいていますか?)

- ・豊かな自然とふれあう機会を創出し、多くの市民が利用している
- ・生物多様性の状況を把握し、その結果が施策へ反映されている
- ・市民による保全活動が促進され、連携が進んでいる
- ・開発行為に対する適切な監視や指導がされている
- ・企業による生物多様性保全に関する CSR 活動が活発化している
- ・多面的機能を持つ農地が保全され、生態系に配慮した営農がされている

Goal【まちの状態指標】

指標名	現状値 (把握年度)	目指す方向
「自然とふれあえる場の多さ」として満足している市民の割合	53.6% (2020年度)	1
生物多様性を理解している市民の割合	35.0% (2020年度)	1
① 希少野生動植物種② 特定外来生物が豊田市にも生息・生育していることを知っている市民の割合	① 38.6%(2020年度) ② 74.0%(2020年度)	1
生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合	10.2% (2020年度)	1
市内で確認された希少種の種数	487種(2020年度)	\rightarrow
健全化に向かっている人工林の割合	73.1% (2020年度)	1
「公園や緑地が身近にあるまち」として満足している市民の割合	56.9% (2020 年度)	1
生物多様性保全活動に取り組む企業の割合	14.6%(2020年度)	1





Pick Up ラムサール条約登録湿地 10 周年

(環境政策課)

矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地は「東海丘陵湧水湿地群」としてラムサール条約に登録された湿地であり、平成 23 年に策定した東海丘陵湧水湿地群保全活用計画に基づいて、整備や活用を進めてきました。

令和4年度は、ラムサール条約登録から10年が経過することを記念して、「ラムサール条約登録10周年記念シンポジウム」や、「東海丘陵湧水湿地群巡り」等のイベントを開催しました。

記念シンポジウムでは、矢並小学校、上鷹見小学校、則定小学校の児童が、それぞれの湿地での学習成果の発表を行いました。また、愛知学院大学の富田准教授による湿地保全に関する記念講演会を実施しました。

湿地群巡りでは、普段は公開されていないそれぞれの湿地を、小学生のガイド案内で巡るツアーを開催しました。





Pick Up 山中町自治区が環境保全関係功労者表彰を受賞 (環境政策課)

豊田市では、日頃環境活動に尽力されている団体・個人について、国や愛知県等が実施する表彰に積極的に推薦しています。令和4年度は1団体が表彰されました。表彰実績は以下のとおりです。

■愛知県環境保全関係功労者表彰 山中町自治区

功績概要 ラムサール条約登録湿地である恩真寺湿地(2012年登録)の保全活動や、地元小学校で湿地を活用した学習の場を創出



表彰式の様子

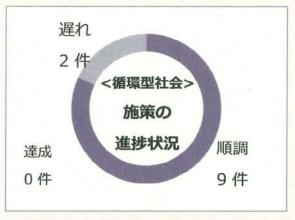


湿地保全作業の様子



地元小学校の温地見学の様子

【2022(令和4)年度の進捗状況】



※「達成」: 施策の当初の目標を達成しているもの

「順調」: 現状のペースで今後も取組を進めていくもの 「遅れ」: ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に

取り組む必要があるもの

※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会 で意見や提案等を受けています。

<施策の進捗状況>

- ・11 の施策は、9 件が順調の評価。
- ・市民一人当たりのごみ排出量が減少している。
- ・事業系可燃ごみが減少していない。
- ・ダンボールコンポストモニター登録者数、リ ユース工房利用者数が増加している。
- ・ごみ分別アプリのダウンロード数が増加している。
- ・ごみ処理1t当たりの発電量、焼却施設の稼働率が目標値を上回っている。
- ・不法投棄パトロール隊の団体数が増加している。
- ・廃棄物の不適正処理現場の監視ができている。

Vision 【2025 年への「めざす姿」】(このような姿に近づいていますか?)

- ・廃棄物の発生抑制が進んでいる
- ・廃棄物の再使用・再生利用が進んでいる
- ・廃棄物の適正処理が進んでいる
- ・安心できるごみ処理体制が確保されている

Goal【まちの状態指標】

指標名	現状値 (把握年度)	目指す方向
市民一人当たりのごみの排出量	539 g (2022 年度) ↓
事業系可燃ごみの排出量	38,245 t (2022 年度) ↓
廃棄物の不適正処理現場の数	110 か所 (2022 年度) \
最終処分場の容量確保	47,632m ³ (2022 年度) ↑
施設の稼働率	66% (2022 年度) ->

Pick Up ペットボトルの水平リサイクルの協定締結 (循環型社会推進課)

令和4年5月13日に、持続可能な循環型社会の実現を目指し、豊田市と豊田通商株式会社、サントリーホールディングス株式会社の3者による「ペットボトルの水平リサイクルに関する協定」を締結しました。

ペットボトルのリサイクルは、使用済みのペットボトルから繊維シート等に再利用するのが主流ですが、水平リサイクルは、使用済みのペットボトルを原料として、新たなペットボトルを製造するものです。





分別収集等により市民から集めたペットボトルを、豊田通商株式会社へ売払い、豊田通商株式会社が買い受けたペットボトルを使用して、再生ペットボトルの原料となるペレット(PET 樹脂の小片)を製造します。サントリーホールディングス株式会社は、ペレットを豊田通商株式会社から買い受け、再生ペットボトルの製造に使用し、飲料を販売します。

Pick Up 緑のリサイクルセンター改修工事完了 (清掃施設課)

令和3年9月から実施していた「緑のリサイクルセンター改修工事」は令和5年2月末で工事 完了し、3月から通常稼働を再開しました。

緑のリサイクルセンターは市内で発生する刈草、せん定枝及び食品残さを受け入れ堆肥化する 有機性廃棄物資源化施設として、平成 22 年 7 月に稼働を開始しました。この改修工事では、処理システム全体を見直すことで、設備の老朽化に対する機能回復と、処理量の増加を実施しました。

本工事により、処理量を年間 2,480 t (令和 2 年度実績) から年間 3,800 t に引き上げると共 に、これまで焼却処理をしていた製造過程で発生する不適物の量を 10%以下に低減する事ができます。 完成した堆肥 「eco グリーン」 や「チップ」 は令和 5 年 6 月から販売を再開しております。



発酵途中の様子



販売堆肥「eco グリーン」

安全・安心社会











【2022(令和4)年度の進捗状況】



- ※「達成」: 施策の当初の目標を達成しているもの、 「順調」: 現状のペースで今後も取組を進めていくもの 「遅れ」: ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取
 - り組む必要があるもの
- ※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会 で意見や提案等を受けています。

<施策の進捗状況>

- ・11の施策は、全て順調の評価。
- ・成果指標は3項目中、2項目が順調の評価
- ・審議会では、施策の柱 4.2「良好な生活環境の 形成」について、市が全庁的に対応しているこ とへの評価や施策の柱 4.3「気候変動や自然災 害による環境影響の低減・回避」について、予 想を超える大災害への備えや、適応策に力を入 れてもらいたい等の意見が出された。

Vision 【2025 年への「めざす姿」】(このような姿に近づいていますか?)

- ・生活環境が保全され、快適に暮らせている
- 災害に強いまちづくりが進んでいる

Goal【まちの状態指標】

指標名	現状値 (把握年度)	目指す方向
周辺環境への満足度(全体)	66.6% (2020年度)	1
「気候変動への適応」の言葉を知っていて、積極的に取組を テっている市民の割合(※令和4年度から変更)	26.0% (2020 年度)	1

Pick Up 高校生向け気候変動対策を考える会議「模擬 COP」開催(環境政策課)

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、高校生が話し合う気候変動対策を考える会議「模 擬 COP」を開催しました。

会議の第1部では気候変動に関する国際連合枠組 条約締約国会議(COP)を模し、排出削減量に関数 議論を行いました。高校生と大学生がチームを組み、 国の代表者として自国の国益を考え主張しました。

第2部のグループワークでは、「カーボンニュートラル社会を達成するために、2035年頃(参加者が30歳頃)に日本(自分たち)がとるべき具体的な対策」について話し合い、個人の変化だけではなく、社会システムの変化について活発に議論しました。



市民の環境行動の向上と共働の分野



【2022(令和4)年度の進捗状況】



※「達成」: 施策の当初の目標を達成しているもの

「順調」:現状のペースで今後も取組を進めていくもの 「遅れ」:ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り

組む必要があるもの

<施策の進捗状況>

- ・10 の施策は、全て順調の評価。
- ・成果指標は9項目、全ての項目が順調の評価
- ※施策には、他分野と重複する項目も含まれています。
- ・審議会では、施策の柱 5.4「環境行動を促す支援・仕組みづくり」についてインタープリターの世代交代やアプローチ方法の工夫の必要性などの意見が出された。
- ※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会で意見や提案等を 受けています。

Vision 【2025 年への「めざす姿」】(このような姿に近づいていますか?)

- ・充実した環境学習施設を拠点に、様々な世代へ適切な環境情報・学習の場が提供されている
- ・学んだ知識を活かして、環境配慮行動を実践する市民が増えている
- ・多様な暮らし方を認め、理想の暮らしを実現している
- ・多くの市民・事業者が、自発的に環境行動を実践し、活動成果を共有している
- ・特徴的な取組が市内外へ発信されている ・市が率先して環境配慮行動を実践している

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値 (把握年度)	目指す方向
「市民や企業が環境に配慮しているまち」として満足している市民の割合	48.6% (2019年度)	1
環境配慮行動を実践している市民の割合	76.3% (2020年度)	1
環境に関連する取組を行っている事業所の割合	30.6% (2020年度)	1
豊田市や住んでいる地域に対して愛着を感じている市民の割合	79.6% (2019年度)	1

Pick Up 「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム」への参加(未来都市推進課)

令和4年7月、豊田市は国連経済社会局からの招待を受け、 ニューヨークで開催された「ハイレベル政治フォーラム」の特別会合である「地方・地域自治体フォーラム」及び「VNR ラボ」に参加しました。壇上では市長が令和4年6月に発行した「自発的自治体レビュー」について説明し、パートナーシップの重要性を発信しました。



★豊田市環境基本計画成果指標一覧(主要データ)

社会・ 分野	指標名	2022 年度 実績	最終目標 (2025 年度)
脱炭素社	再生可能エネルギーの総発電量(市導入・関与分)	116,419kW	119,500kW
	スマートハウス支援件数(累計)新築及び既築	1,518 件	2,000 件
	スマートハウス支援件数のうち、新築 ZEH(スマート・ゼロハウス)(累計)	155 件	280 件
	新車販売台数に占める次世代自動車の割合	40.7%	50%
素社	公共施設の LED 化実施割合	32.0%	50%
会	中小企業向け脱炭素スクール修了事業者数	37 者	100者
	人工林の間伐実施面積(年間) ※公有林等を除く	879ha	1,200ha
	適応策推進事業への延べ参加者数(累計)	435 人	1,200人
	環境に関する先進技術実証事業の件数	6 件	毎年度3件以上
	豊田市自然観察の森における講座等の受講者数	4,846 人	5,500 人
	新たに整備された水辺や緑地等のふれあい空間の 箇所数	3 か所	3 か所 (2022~2025 年)
	環境学習施設を利用した小学生の生物多様性の理 解度	92.8%	80%以上
自	サイエンスミュージアムネットに登録された標本 の数(累計)	27,490 件	40,000 件
然	市民参加生き物調査における一般参加者数	988人	1,700 人
生	生物多様性保全に関する活動団体数	33 団体	35 団体
自然共生社会	人工林の間伐実施面積(年間) ※公有林等を除く	879ha	1,200ha
	みどりのまちづくり推進事業補助金による緑地整 備面積	469m²	3,200m ² (2021~2024 年度)
	自然共生に関する企業と地域・市民活動団体との マッチング件数	6件	年間5件
	山村部の暮らしに関する情報受信者数	2,420 件	増加
	経営耕地面積	_	維持

社会・ 分野	指標名	2022 年度 実績	最終目標 (2025 年度)
循環型社会	市民一人当たりのごみ排出量 (家庭系ごみ+資源回収量)	638g	660 g
	市民一人当たりのごみ排出量	539g	520 g
	市民一人当たりのごみ排出量(燃やすごみ)	502g	485 g
	最終処分量(直接埋立量)	1,477t	1,527 t
社	事業系可燃ごみ排出量	38,245t	35,000 t
会	ごみ処理1t当たりの発電量	462 k W h / t	440 k w h / t 以上
	廃棄物の不適正処理現場の数	110 か所	前年度から 3 か所以上減
	焼却施設の稼働率	66%	60%以上
安社全	環境の保全を推進する協定等で定めた 協定値を超過した事業所の数	1件	0 件
会安	不良な生活環境の解消率	86%	50%
心	適応策推進事業への延べ参加者数(累計)	435 人	1,200人
曹	環境学習施設における講座等の受講者数 ① 豊田市自然観察の森 ②豊田市環境学習施設 eco-T	89.4%	80%
民の環	とよた SDGs パートナーの連携事業数	20 件	毎年度 5 件以上
環境行動力	都市部と山村部の暮らしに関する情報受信者数 ①WEB サイト閲覧数、②おいでんさんそんセンター Facebook いいね数	①24,408 件 ②2,420 件	①60,000 件 ②増加
の	環境学習施設 eco-T におけるインタープリター登録数(積み木キャラバン隊含む)	92人	100 人体制を維持
回上 レ	とよた SDGs ポイント新規加入者数	817人	毎年度 500 人以上
向上と共働	協定協議会 WEB サイト閲覧者数(4年間累計)	5,121 件	10,000 人(2021-2024 年度)
の分	環境情報提供ツールの利用者数 分別アプリさんあ〜る	67,033 件	96,000 件
野	SDG s 関連プロモーション事業数	6件	毎年度 3 件以上